

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

（注）5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	緩やかに回復している	↗
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	5年度は増加見込み	5年度は増加見込み	→
企業収益	5年度は減益見込み	5年度は減益見込み	→
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	↘
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復している」

百貨店販売は、外出需要の増加やインバウンドの回復により、前年を上回っている。スーパー販売は、一部買い控えが見られるものの季節商品が好調であり、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、人流増加やインバウンドの回復により、前年を上回っている。乗用車販売は、国内向けの生産増加により納期が改善しており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、食料品や医薬品のほか、外出機会の増加により化粧品や季節商品が好調であり、前年を上回っている。家電販売は、猛暑の影響でエアコンなどが好調であり、前年を上回っている。ホームセンター販売は、園芸用品や季節商品が好調であり、前年を上回っている。旅行取扱高は、さらなる人流回復により、引き続き国内外への旅行が増加している。

(主なヒアリング結果)

- 国内来店客数は増加しており、免税品を除く売上高も前年を上回っている。化粧品や身の回り品、ラグジュアリーが引き続き堅調なことに加え、これまで回復の鈍かった紳士衣料が回復しているのは良い傾向。(百貨店)
- お盆を中心に人が集まる機会の増加から、オードブル等の売れ行きが好調であった。一方で普段の生活ではまとめ買い傾向がやや薄れるなど、買い控えの発生がみられる。(スーパー)
- 5類移行後、各地で夏のイベントが通常開催されたことによる人流回復、インバウンドの増加により客数、売上高ともに前年を上回る。(コンビニ)
- 国内の増産対応で新車登録台数、売上高ともに増加。受注は引き続き好調で、納車台数を上回っている。部品不足の影響は一部残っており、長納期がなくなったわけではないが回復傾向にある。(自動車)
- 今夏は5類移行後初めての大型連休ということもあり前年を上回って好調を維持。特に募集型企画旅行ツアーが好評であり売上を牽引した。個人での海外旅行は、コロナ前水準にはまだ遠いものの徐々に増加している。(旅行代理店)
- 入場者数は前年を上回って推移。コロナ前との比較でも95%程度まで回復している。堅調な個人旅行客に加え、コロナで落ち込んでいた団体客や外国人旅行客が増加していることによるもの。(娯楽)
- 売上高はコロナ前同水準までほぼ回復。5類移行後、さらに人流が回復し客足は好調。特に都市部の店舗ではインバウンド客の増加が顕著。(飲食)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械の自動車は、供給制約の影響が緩和されたことにより、高水準での生産を維持している。鉄鋼は、自動車向けは改善傾向であるものの、建築資材の需要などが伸び悩んでいることから横ばい圏内で推移している。電子部品・デバイス、海外向けなど一部に弱含みの動きがみられるものの、高水準で推移している。造船は、緩やかに増加している。このように、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。

- 現状、半導体などの部品不足の懸念もなく、夏場に一部生産が遅れた分を挽回生産している。中国市場の動向が今後の生産台数にも影響を及ぼすため、動向を注視している。(輸送機械)
- 受注、生産とも前四半期比でほぼ横ばい。自動車向けはメーカーの生産回復により、改善傾向であり、10月以降、生産数量の増加を見込んでいる。(鉄鋼)
- 自動車メーカーの生産調整が緩和されたことにより、自動車向けの受注が回復傾向。中国市場の落ち込みは継続しているものの、全体で見れば受注残解消のためフル稼働に近い水準での生産が続いている。(情報通信機械器具)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は足下では横ばいで推移しており、新規求人数は前年を上回るなど、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 設備更新や賃金体系見直し等により新規求人数が一時的に減少していたものの、8月は外出機会や行楽需要の増加等により新規求人数が増加しており、雇用情勢が悪化しているとはみていない。今後も改善を期待しているが、物価高・人件費高騰による新規求人数減少に留意する必要がある。(公的機関)
- 生産水準の高まりに伴い人手不足感が顕著となってきている。より好条件の大手企業へ人材が流れており、人材確保も難しい。足下では外国人技能実習生の採用をコロナ前と同水準まで増やしている。(電気機械)
- コロナ禍で離職した従業員が戻っておらず、引き続きアルバイトが慢性的に不足。店舗によっては来客が少ない時間帯や曜日に店を閉めている。正社員も店長職が離職等により人材不足であるため、働き方の改善に取り組んでいる。(飲食)

■ 設備投資 「5年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減少見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「電気機械器具」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「卸売」等で減少見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「不動産」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 世界的な半導体需要の拡大に対応するため、工場敷地内に新たな施設を建設予定としており、増加する見込み。(非鉄金属)
- 都市開発案件などで大きな投資を予定しているため、増加見込み。(運輸、郵便)

■ 企業収益 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で増益見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「電気機械器具」等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、「不動産」等で減益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、分譲住宅が増加しているものの、持家、貸家及び給与住宅が減少していることから前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を上回っている」

- 輸出 (円ベース) は、前年を上回っている。なお、輸入 (円ベース) は、前年を下回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査 (5年7-9月期) の景況判断 BSI でみると、5年7-9月期は、「上昇」超となっている。先行きについては、5年10-12月期は、引き続き「上昇」超の見通しとなっている。

3. 各県の総括判断

	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、緩やかに回復している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
佐賀県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
長崎県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。